

博士論文の審査結果の要旨

専攻	保健医療学	分野	看護学分野
学籍番号		院生氏名	高橋佐和子
通学キャンパス	小田原キャンパス		
論文題目	大学薬物乱用防止教育担当者および学生の教育的ニーズの把握 — 大学生の大麻等薬物乱用防止教育プログラム開発に向けて —		
審査結果 (枠で囲む)	合格		不合格

<審査結果の要旨>

本研究の目的は、大学生の薬物使用に関わる要因の探究及び大学と学生の薬物乱用防止教育へのニーズを把握し、大学における薬物乱用防止教育プログラム開発のための基礎的資料を得ることである。

研究デザインは、2つの対象からなる横断的質問紙調査である。2つの対象は、全国の大学の薬物乱用防止教育担当者（研究Ⅰ）と大学生（研究Ⅱ）である。調査内容は、大学の薬物乱用防止対策の実施状況や大学生の薬物乱用防止教育に関するニーズを調査し、大学における薬物乱用防止教育の実態および大学で実施しやすい教育方法を明らかにしている。その調査結果を踏まえて教育プログラムの開発案を提示した。

本研究の独創性・新規性は、薬物乱用防止の教育プログラム開発に薬物乱用防止教育担当者と大学生の両方のニーズ調査を行い、その結果に基づいて教育プログラムを開発した点にある。教育プログラム開発に当り、公衆衛生看護学領域の健康教育に関するヘルスコミュニケーション理論を適用させたことは、開発したプログラムに理論的裏付けをし説得力のある内容となった。

よって審査委員全員は、本論文の著者に博士（看護学）の学位を授与するに十分な価値あるものと認め、論文審査ならびに口頭試験に合格と判定する。

<口頭試験結果要旨>

判 定 : 合 格

われわれ審査委員は上記論文提出者において、平成 25 年 7 月 16 日に論文を受け取り、論文内容について第 1 回審査を 7 月 30 日に行った。この時、論文提出者のプレゼンテーション（40 分）を聞き、審査員と質疑応答（30 分）、審査員間で審査に関する審議（40 分）、その結果を主査がまとめ副査の内容確認を経て論文提出者へ審査結果を文章で連絡した。

1. 博士論文にふさわしい独創性・学術的価値・信頼性・完成度を追研してみると、研究Ⅰ・Ⅱの総合考察が弱い。
2. 本研究にコンジョイント分析を用いた点は、新規性がある。論文中にコンジョイント分析をなぜ用いたのか説明がない。
3. コンジョイント分析に関する数値の基準があれば、その基準値の目安等について、コンジョイント分析に詳しくない研究者にも理解できるような説明を論文中に加える必要がある。
4. 本研究は、実態調査のみでまとめられているため博士論文として信頼性に欠ける。調査研究結果のみでは、回答者の本音とたてまえがあり、真実（真理）はどこにあるのか疑問が残る。この点を他の信頼性が確保された調査結果を裏付けることで、妥当性を加えることが出来るのではなかろうか（文献の裏付け）。
5. 調査項目の選定についても信頼性・妥当性を確保出来る文献上の調査項目を示すことで、調査結果に信頼性・妥当性を持たせる必要がある。
6. わかりやすい論文であるが、結果から考察している内容に飛躍が目立つ。
7. 回収した調査結果から 30 通に満たない大学は結果の集計から除いたとあるが、その理由と調査に協力した者への倫理的配慮について説明が必要である。調査へ協力した者は、多くの時間と労力を割いて調査票へ回答しているはずである。この点を無視した結果につながるような表現は、論文中で慎む必要がある。研究者としてのモラルが問われる部分でもあるため、慎重な配慮を期待する。

論文審査担当者	主 査 岡崎 美智子 副 査 大野 かおり 副 査 柴本 勇
---------	---